

V27a Ashra 報告：全体計画および進捗

会田勇一、青木利文、浅岡陽一、上橋雅志、眞子直弘、増田正孝、野田浩司、奥村暁、佐々木真人（東大宇宙線研）、木村孝之（茨城大工）、杉山直（国立天文台）、家入正治、新井康夫（高エネ研素核）、森元祐介、小川了（東邦大理）、長南勉、渡邊靖志、安田雅弘（東工大理）、G.Guillian、S.Dye、J.Learned、松野茂信、S.Olsen（ハワイ大マノア校）、J.Hamilton、R.Fox（ハワイ大ヒロ校）、W.Hou、Y.Hsiung、M.Wang（台湾大）、M.Huang（台湾総合大）、他

Ashra は広視野高精度光学系と光電撮像パイプライントリガーからなる新たな検出器を用いた、空気シャワー大気発光と星光の全天観測計画である。Ashra は、42度の視野を持つ12式の単位検出器で、1分角の精度で全天のほぼ80%をカバーする。

2004年度より予算を獲得し、設計開発および、ハワイ州マウイ島ハレアカラ山頂での1年にわたる試験観測を経て、本観測サイトであるハワイ島マウナロア山での検出器建設と光学調整が行われている。本講演では、それらの計画と進捗について総括的に報告する。